

公衆衛生 書評

「地域診断のすすめ方 —根拠に基づく生活習慣病対策と 評価, 第2版」

評者 多田羅浩三 放送大学「生活と福祉」専攻教授

国立保健医療科学院の水嶋春朔先生が、眼からうろこが落ちるような、意欲的な本を出版された。「地域診断のすすめ方—根拠に基づく生活習慣病対策と評価」である。

「健康日本21」という国民運動が推進されている。平成14年に制定された健康増進法では、その第2条で「国民の責務」ということが言われた。自らの健康状態について自覚し、健康づくりに努めることは、国民の責務とされた。そして、昨年から厚生労働省は、人々の腹囲を主な指標としたメタボリック・シンドローム対策の旗を立ち上げている。まさに国民を主役とする、健康づくりがすすめられている。これらの運動の中で最も強調されているのが、「根拠のある健康づくり」ということであろう。人々は、自分の健康状態や日ごろの生活習慣に即した固有の「根拠」をもとに、自らの健康づくりの目標を定め、設計し、実行しなければならない。だとすれば、このような人々の健康づくりをどのように支え、

水嶋春朔・著：地域診断のすすめ方—根拠に基づく生活習慣病対策と評価, 第2版。医学書院, 2006年

相談に乗っていくか。どのように根拠を明らかにし、健康づくりに取り組めばいいのか。水嶋先生がこの本によって、その課題に取り組むために必要な基礎的な知識と方法を、詳細に判りやすく示してくれた。

この本の構想は、神奈川県と横浜市などの自治体から依頼された職員研修や研究会において「予防医学ストラテジー」に関して講演した内容や、エクセルを用いた集計解析のパソコン研修での内容を準備する過程、さらに参加者との活発な質疑応答から芽生えたものである、と先生は述べている。その言葉のとおり、本の内容は現場の問題意識に立ち、直接役立つように意図された、知見の紹介と方法の解説に満ちている。

医療、保健、そして福祉に携わる、すべての専門職の人たちに、ぜひ一読し、活用していただくよう推薦したい。

